

## 平成 29 年の全数把握対象疾患

平成 29 年までの全数把握対象疾患の届出状況は、表 1 のようになっている。

### 1. 一類感染症

届出はなかった。

### 2. 二類感染症

結核は 285 例の届出があり、昨年 の 266 例から増加した。類型は、患者 172 例、疑似症患者 3 例、無症状病原体保有者 110 例であった。患者の病型は、肺結核が 121 例、その他の結核（結核性胸膜炎、リンパ節結核、粟粒結核等）が 36 例、肺結核及びその他の結核が 15 例であった。全届出の年齢階層は、0 歳 6 例、1～10 歳未満 6 例、10 代 2 例、20 代 13 例、30 代 13 例、40 代 19 例、50 代 32 例、60 代 41 例、70 代 56 例、80 代 72 例、90 代 25 例で、80 代の届出が最も多く、70 歳以上が全体の 54%を占めていた（別添 1）。

### 3. 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症 21 例の届出があった。類型は、患者 13 例、無症状病原体保有者が 8 例で、その年齢階層は、10 歳未満が 6 例、10 代が 1 例、20 代 5 例、30 代 4 例、40 代 2 例、50 代 3 例であった。血清型・検出病原体は、O157 が 11 例（VT1&VT2 が 8 例、VT2 が 3 例）、O26 が 7 例（VT1 が 6 例、VT2 が 1 例）、O111 が 1 例（VT1 が 1 例）、O145 が 1 例（VT2 が 1 例）、O 型別不能が 1 例（VT2）であった。推定感染経路は、経口感染が 10 例、接触感染 4 例、不明が 7 例であった。経口感染が推定されている事例には、バーベキューや牡蠣・ホルモン、生センマイを喫食した記載のある事例が含まれていた。接触感染が推定されているものは、いずれも家族内感染が疑われる事例であった（別添 2）。

### 4. 四類感染症

E型肝炎 1 例、A型肝炎 1 例、つつが虫病 1 例、デング熱 4 例、レジオネラ症 18 例の届出があった。

E型肝炎は 70 代男性から 1 例の届出があり、感染経路等は不明とされている。

A 型肝炎は、20 代男性からの届出が 1 例あった。生ホタテ、鶏の肝の摂食が推定感染経路とされている。

つつが虫病は 70 代男性で、ダニによる刺し口が確認されており、IgM 抗体も検出されている届出であった。

デング熱は、4 例届出があり全て海外感染事例であった。患者の病型は 4 例ともデング熱型で、感染地域は、インドネシアバリ島が 1 例、フィリピン サンバレス州スービック近郊が 1 例、インド ニューデリーが 1 例、マレーシアまたはラオスが 1 例あった。ウイルス遺伝子検査が実施されたバリ島の患者から 1 型、マレーシアまたはラオスの患者から 2 型が検出されている。

レジオネラ症 18 例の病型は肺炎型 17 例、無症状病原体保有者 1 例であった。無症状病原体保有者は、マイコプラズマ性肺炎により入院する際の尿検査でレジオネラを検出した。性別は男性が 16 例（40 代 1 例、50 代 5 例、60 代 3 例、70 代 4 例、80 代 1 例、90 代 2 例）、女性

が2例(70代1例、80代1例)であった。推定感染経路は水系感染が5例、不明が13例となっている。

## 5. 五類感染症

アメーバ赤痢9例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症27例、急性脳炎5例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症10例、後天性免疫不全症候群7例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症3例、侵襲性肺炎球菌感染症40例、水痘(入院例)5例、梅毒29例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風2例、風しん2例、麻しん1例の届出があった。

アメーバ赤痢の病型は、腸管アメーバ症8例、腸管外アメーバ症1例であった。患者は、9例すべて男性(40代2例、50代2例、60代4例、70代1例)で、推定感染経路は性的接触(同性間)1例、経口感染2例、不明6例で、推定感染地域は、奈良県1例、県外(都道府県不明含む)6例、国外(シンガポールまたはマレーシア、タイまたはマレーシア)2例であった。70代からの届出は、平成26年にアメーバ性肝腫瘍での入院歴があり、健康保菌者であったと考えたとの記載があった。シンガポールまたはマレーシアが推定感染地域とされる事例は、他にも平成28年にカンボジア、インド、フィリピンへの渡航歴も記載されていた。

ウイルス性肝炎1例は70代女性で、病型はB型であり、B型肝炎ワクチンの接種歴はなかった。推定感染経路は不明であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性18例(50代6例、60代1例、70代5例、80代4例、90代2例)、女性9例(70代2例、80代3例、90代4例)であり、80代女性のうち1例は感染死亡者が含まれている。病原体検出部位・菌種としては、血液5例(*Enterobacter aerogenes* 2例、*Klebsiella pneumoniae* 1例、*E. coli* 1例、大腸菌1例)、尿8例(*E. coli* 4例、*Enterobacter aerogenes* 1例、*Klebsiella pneumoniae* 1例、*Raoultella ornithinolytica* 1例、大腸菌1例)、血液・尿2例(*Serratia marcescens* 1例、*Enterobacter cloacae* 1例)、胆汁1例(*Citrobacter braakii* 1例)、PTGBDカテーテル先端1例(腸球菌 クレブシエラ1例)、喀痰2例(*Klebsiella pneumoniae* 1例、*E. coli* 1例)、膿4例(*Enterobacter aerogenes* 4例)、咽頭ぬぐい液1例(*Klebsiella pneumoniae* 1例)、胆汁・創部ドレーン1例(*E. coli* 1例)、喀痰・尿1例(不明1例)、検出部位不明1例(*Escherichia coli* 1例)推定感染経路は以前からの保菌が16例、中心静脈カテーテルからが1例、尿路カテーテルからが2例、PTGBDカテーテルからが1例、手術部位(手術手技)が2例、移植後免疫不全1例、耐性獲得1例、不明3例であった。

急性脳炎は、1月に6歳男児、2月に2歳女児、4月に0歳男児、5月に77歳女性、12月に1歳女児の計5例の届出があった。原因病原体は、6歳男児がインフルエンザA、2歳女児は不明とされている。また0歳男児はヘルペスウイルス6型であり、77歳女性はヘルペスウイルスの潜伏感染によるウイルスの再活性化が原因と推定されている。1歳女児は感染死亡者とされており、インフルエンザAH1pdmが検出され、家族内感染したとされている。

クロイツフェルト・ヤコブ病は、1月に60代男性、5月に70代男性1例ずつ、8月に80代男

性の届出があった。3例とも病型は、古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)であり、すべての事例で進行性認知症、ミオクローヌスを呈していた。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、昨年より倍増し10例の届出があり、過去10年の中で最も多い届出数であった。1月届出の60代男性の血清群はA群で発病7日後に死亡、2月の届出は50代男性と60代男性が1例ずつで60代男性は発病日に死亡、いずれも血清群は不明である。3月の届出は80代男性で血清群はB群、4月の届出は80代男性で血清群はG群であり、発病9日後に死亡、5月は40代男性で血清群は不明で発病1日後に死亡、6月の届出は80代女性で血清群はG群であった。8月の届出は70代女性で血清群はG群、12月の届出は70代男女一例ずつで、血清型は男性がG群、女性はB群であった。4例の死亡例の推定感染経路は、いずれも不明であった。またすべての事例がショック症状を呈していた。

後天性免疫不全症候群の届出は7例あった。3月の届出は23歳男性で、病型は無症状病原体保有者、5月には2例の届出があり38歳と43歳男性で43歳男性の病型はAIDSであった。6月の届出は31歳女性で病型は無症状病原体保有者、7月の届出は26歳男性で病型は無症状病原体保有者、8月の届出は37歳男性で病型はAIDS、9月の届出は43歳女性で病型はAIDSであった。AIDSと診断した指標疾患はクリプトコッカス症(肺以外)1例、ニューモシスチス肺炎2例であった。推定感染経路は、性行為感染(同性間性的接触)が2例、性行為感染(異性間性的接触)3例、不明2例であった。

ジアルジア症1例は80代男性で、推定感染経路は経口感染とされているが詳しい記載はなかった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、2月に70代男性、5月に0歳男児、7月40代女性の計3例の届出があった。3例いずれも推定感染経路は不明であり、70代男性はヒブワクチンの接種歴無し、40代女性は不明、0歳男児は一回の接種歴はあるが、接種年月日は不明と記載されていた。

侵襲性肺炎球菌感染症の届出は40例あり、報告が開始された平成25年4月以降最多であった。男性22例、女性18例で、0歳児1例、1歳児4例、3歳児1例、4歳児2例、20代1例、30代1例、40代2例、50代4例、60代3例、70代10例、80代6例、90代5例であった。60代3例の内1例は発病2日後に死亡している。小児8例は、いずれも肺炎は呈していないが、内5例は菌血症を呈していた。また7例にワクチン接種歴の記載があった。成人のワクチン接種歴のあるものは2例であった。

水痘(入院例に限る)5例の病型は全て検査診断例であった。0歳男児、30代男性2例、40代男性1例、50代女性1例であった。ワクチン接種歴の確認できている症例はなかった。推定感染経路は、家族内感染が疑われる事例が2例、不明が3例であった。

梅毒は平成26年より届出数の増加が続いていたが、昨年よりやや減少し、29例の届出であった。男性20例、女性9例、年齢層は、男性は20代7例、30代3例、40代6例、50代2例、60代1例、70代1例で、女性が10代1例、20代6例、40代1例、60代1例であった。患者の病型は、早期顕症梅毒24例(I期:男性7例、女性2例、II期:男性10例、女性5例)、

無症候(無症状病原体保有者)5例(男性3例、女性2例)であった。感染経路は性的接触が27例(同性間3例、異性間18例、不明6例)、不明2例であり、同性間は男性のみであった。推定感染地は、奈良県16例、奈良県以外(都道府県不明を含む)10例、国外(フランス)1例、不明2例であった。なお、28歳女性の推定感染経路は、性的接触とともに刺青の針等の鋭利なものの刺入による感染も記載されていた(別添3)。

播種性クリプトコックス症は、平成28年に初めて届出があり、平成29年も2例の届出があった。届出は67歳の男性と52歳女性で、52歳女性は副腎性Cushing(副腎性クッシング症候群)疑いと記載されていた。

破傷風2例は、80代男性と60代男性1名ずつであった。2例とも臨床決定(症状及び受傷歴等)であり、開口障害があり、推定感染経路は創傷感染とされている。

風しん2例はいずれも50代男性であった。1例は臨床診断、もう1例は検査診断例であった。ワクチン接種歴は無または不明であり、推定感染経路は奈良県とフィリピンであった。

麻しん1例は、19歳男性でワクチン接種歴がなかった。推定感染地域は、マレーシアのクアランプールとされている。症状は発疹を呈していたが、コプリック斑の記載はなかった。遺伝子型はD8を検出している。

表1 全数把握対象疾患報告状況

疾患名	調査年		平成18年(2006年)		平成19年(2007年)		平成20年(2008年)		平成21年(2009年)		平成22年(2010年)		平成23年(2011年)	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱													
	ペスト													
二類	マールブルグ病													
	ラッサ熱													
	急性灰白髄炎					2				2		1		
	結核			21,946	247	28,419	372	26,996	371	26,866	287	31,483	361	
	ジフテリア													
	重症急性呼吸器症候群													
三類	中東呼吸器症候群													
	鳥インフルエンザ(H5N1)													
	鳥インフルエンザ(H7N9)													
	コレラ	37		13		45		16		11		12		
	細菌性赤痢	373	3	452	2	320		181	2	235	2	300		
	腸管出血性大腸菌感染症	3,819	29	4,617	50	4,322	38	3,889	50	4,134	53	3,940	24	
	腸チフス	58	1	47		57	1	29		32	1	21		
	ハラチフス	22	1	22	1	27		27		21		23		
	E型肝炎	46		56	2	43		56		66		61		
	ウエストナイル熱													
四類	A型肝炎	224	3	157	1	170	3	115	1	347	2	176		
	エキノкокクス症	13		25		22		27		17		20		
	黄熱													
	オウム病	16		29		9		21	1	11		12		
	オムスク出血熱													
	回帰熱									1	1			
	キャサヌル森林病													
	Q熱	2		7		3		2		2		1		
	狂犬病	2												
	コクシジオイデス症	2		3		2		2		1		2		
	サル痘													
	ジカウイルス感染症													
	重症熱性血小板減少症候群													
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎													
	タニ媒介脳炎													
	炭疽													
	チクングニア熱												10	
	つつが虫病	397		382		442		465		407	2	462		
	デング熱	50		89	1	104		93		244	4	113		
	東部ウマ脳炎													
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)													
	ニバウイルス感染症													
	日本紅斑熱	49		98		132		132		132		190		
	日本脳炎	7		10		3		3		4		9		
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽													
	ブルセラ症	4		1		4		2		2		2		
	ベネズエラウマ脳炎													
ヘンドラウイルス感染症														
発しんチフス														
ポツリヌス症	2		3		2				1		6			
マラリア	54		52		56		56		73		78			
野兔病					5									
ライム病	12		11				9		11		9			
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽									4		3			
レジオネラ症	434	3	668	3	893	5	717	4	751	1	818	9		
レプトスピラ症	24		35		42		16		22	1	26			
ロッキー山紅斑熱														
五類	アメーバ赤痢	598	6	801	10	872	11	786	9	843	11	814	11	
	ウイルス性肝炎(再掲・合計)	229	8	237	3	241	3	223	1	221	1	250		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症													
	急性脳炎	93		228		190		526	1	242	1	258		
	クリプトスポリジウム症	15		6		10		17		16		8		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	140	1	157		152	2	142		172	3	138	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	78	2	95	1	113		103	4	122		197	1	
	後天性免疫不全症候群	1,058	9	1,493	10	1,568	4	1,446	13	1,553	16	1,535	12	
	ジアルジア症	76	3	53	3	76		70	1	77		65	1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症													
	侵襲性髄膜炎菌感染症													
	侵襲性肺炎球菌感染症													
	水痘(入院例)													
	先天性風しん症候群							2				1		
	梅毒	505	2	719	3	839	1	691	2	621	3	827	6	
	播種性クリプトコックス症													
	破傷風	108		89	1	123		113		106		118		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	69		84	1	80		116		120	1	73		
	風しん					303	2	147	2	87		378	1	
麻しん					11,015	12	732	3	447	3	439	2		
薬剤耐性アシネトバクター感染症														
髄膜炎菌性髄膜炎	9		17		10		10		7		12			
新型インフルエンザ等							12,654	305						

表1 全数把握対象疾患報告状況

疾患名	調査年		平成24年(2012年)		平成25年(2013年)		平成26年(2014年)		平成27年(2015年)		平成28年(2016年)		平成29年(2017年)	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンコ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱													
	ベスト													
	マールブルグ病													
二類	ラッサ熱													
	急性灰白髄炎				1									
	結核	29,317	424	27,052	343	26,629	300	24,523	305	24,669	266	23,447	285	
	ジフテリア													
	重症急性呼吸器症候群													
	中東呼吸器症候群													
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)													
	鳥インフルエンザ(H7N9)													
	コレラ	3		4		5		7		9		7		
	細菌性赤痢	214	5	143	1	158		156	1	121	2	141		
	腸管出血性大腸菌感染症	3,768	17	4,044	30	4,151	23	3,573	27	3,647	23	3,904	21	
	腸チフス	36		65		53	2	37	1	52		37		
四類	ハラチフス	24		50		16		32	1	20		14		
	E型肝炎	121		127		154		212	2	356	2	305	1	
	ウエストナイル熱													
	A型肝炎	157		128		433	8	243	2	272	3	285	1	
	エキノкокクス症	17		20		28		25		27		26		
	黄熱													
五類	オウム病	8		6		8		5		6		14		
	オムスク出血熱													
	回帰熱	1		1		1		4		7		8		
	キャサヌル森林病													
	Q熱	1		6		1								
	狂犬病													
六類	コクシジオイデス症	2		4		2		3		3		4		
	サル痘													
	ジカウイルス感染症									12		5		
	重症熱性血小板減少症候群			48		61		60		60		90		
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎													
七類	ダニ媒介脳炎									1		2		
	炭疽													
	チクングニア熱	10		14	1	16	1	17		14		5		
	つつが虫病	436	1	344		320		422		505		448	1	
	デング熱	221	5	249	2	341	3	293	4	342	5	245	4	
	東部ウマ脳炎													
八類	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)													
	ニバウイルス感染症													
	日本紅斑熱	171		175		241	1	215		277		337		
	日本脳炎	2		9		2		2	1	11		3		
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
九類	鼻疽													
	ブルセラ症			2		10		5		2		2		
	ベネズエラウマ脳炎													
	ヘンドラウイルス感染症													
	発しんチフス													
	ポツリヌス症	3				1		1		5	1	4		
十類	マラリア	72	1	47	2	60	1	40	2	54		61		
	野兔病					1		2						
	ライム病	12		20	1	17		9		8		19		
	リッサウイルス感染症													
	リフトバレー熱													
	類鼻疽			4				1				1		
十一類	レジオネラ症	899	8	1,124	12	1,248	11	1,592	8	1,602	10	1,731	18	
	レプトスピラ症	30		29		48		33		76		47		
	ロッキー山紅斑熱													
	アメーバ赤痢	932	6	1,047	8	1,134	15	1,109	18	1,151	11	1,089	9	
	ウイルス性肝炎	186		236	2	188	1	206	2	228	1	241	1	
	不明	38	1	30		27		35		35		32		
十二類	その他	12		20		11		14		17		22		
	(再掲・合計)	236	1	286	2	226	1	255	2	280	1	295	1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症					314	5	1,671	28	1,573	22	1,660	27	
	急性脳炎	371		369		459	3	511	4	763	4	701	5	
	クリプトスポリジウム症	6		25		98		15		14		19		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	185	3	203	8	177		192	2	175	3	200	3	
十三類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	242	1	203	1	268	2	415	2	494	5	588	10	
	後天性免疫不全症候群	1,438	11	1,586	8	1,538	14	1,431	14	1,443	3	1,391	7	
	ジアルジア症	72		82	1	68		81		71	1	60	1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			108		200	2	252	3	312	6	372	3	
	侵襲性髄膜炎菌感染症			23		37		34	1	43	1	25		
	侵襲性肺炎球菌感染症			1,001	9	1,825	20	2,403	21	2,735	23	3,204	40	
十四類	水痘(入院例)					143	5	313	6	318	3	313	5	
	先天性風しん症候群	4		32		9								
	梅毒	875	6	1,228	6	1,661	16	2,690	19	4,575	36	5,820	29	
	播種性クリプトкокクス症					37		120		137	1	136	2	
	破傷風	118		128	2	126	1	120		129	3	125	2	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					56		66	1	61	5	83		
十五類	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	91		55		56		66	1	61	5	83		
	風しん	2,386	18	14,344	180	319	5	163	1	126	1	91	2	
	麻しん	283		229		462	1	35	1	165	3	187	1	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症					15		38		33		28		
	髄膜炎菌性髄膜炎	15	1	2										
	新型インフルエンザ等													
新型インフルエンザ(A/H1N1)														

ゼロ値は表示していない

結核

(別添1)

図-1 過去からの週別届出数の推移

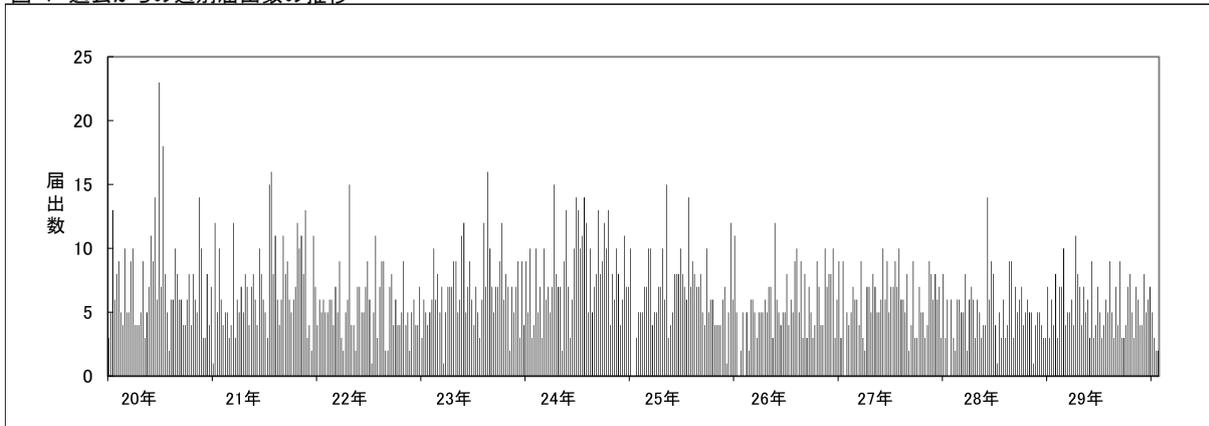


図-2 過去からの届出数の推移

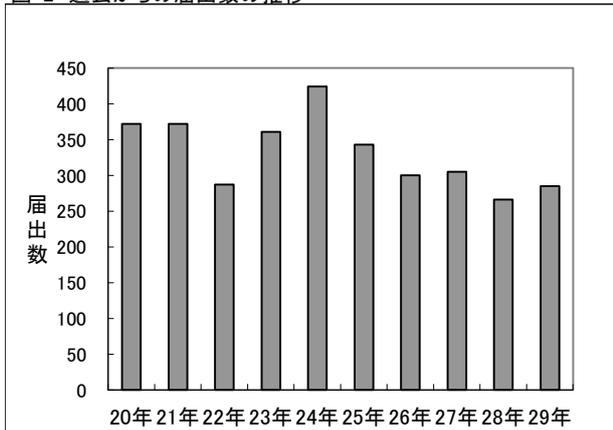


図-5 週別届出数

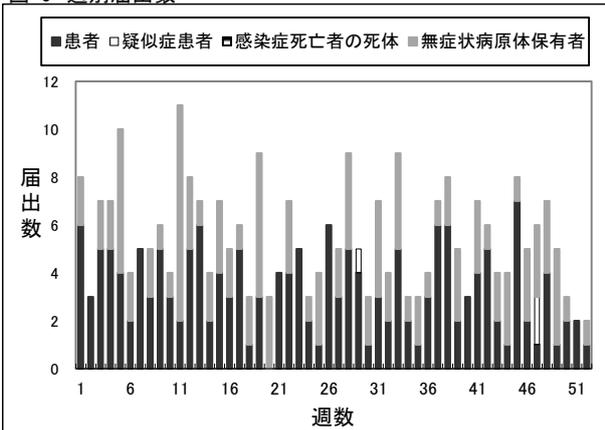
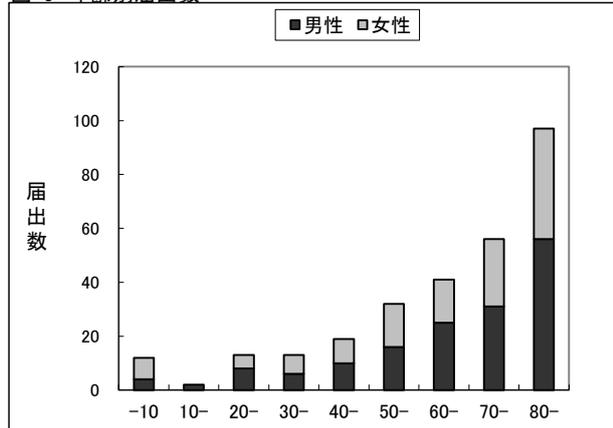


図-3 年齢別届出数



※H19年4月1日～より、全数報告対象疾患となっている

図-6 病型別

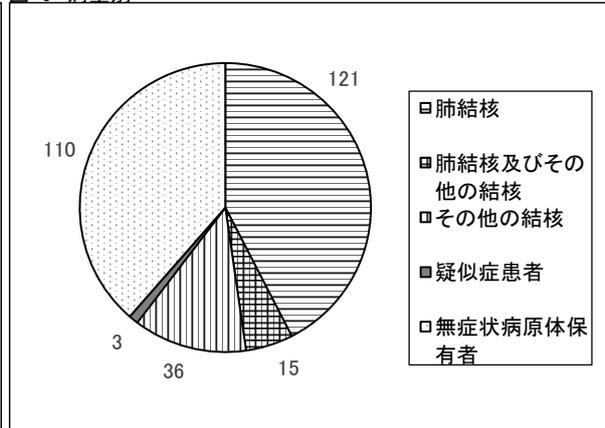
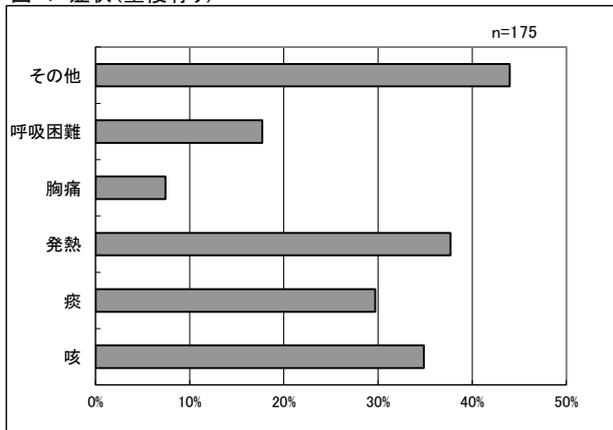


図-4 症状(重複有り)



その他

感染地域(推定含む)  
 県内:213例  
 国内(県外・不詳):70例  
 海外:2例

# 腸管出血性大腸菌感染症

(別添2)

図-1 過去からの週別届出数の推移

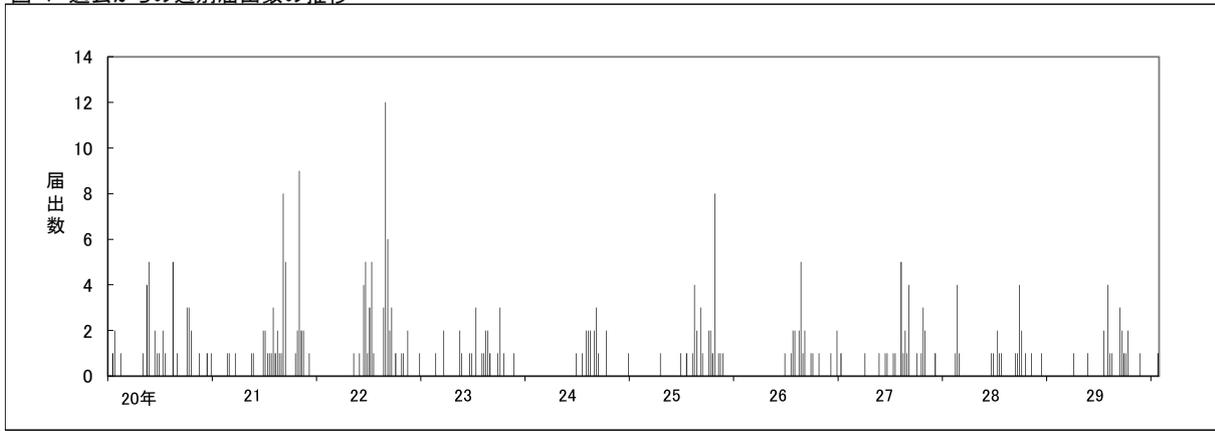


図-2 過去からの届出数の推移

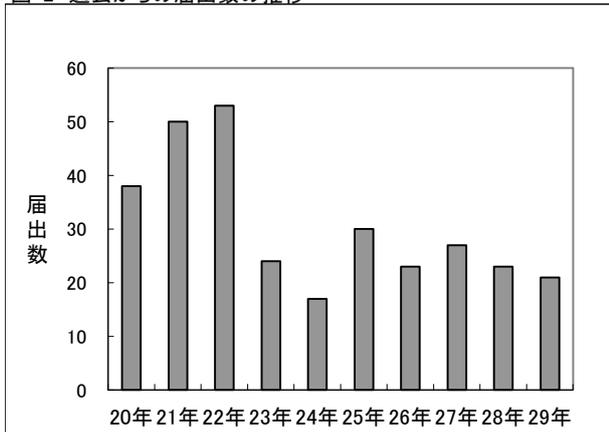


図-5 週別届出数

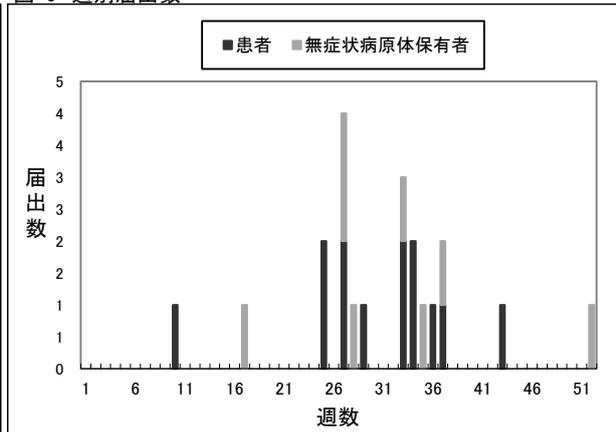


図-3 年齢別届出数

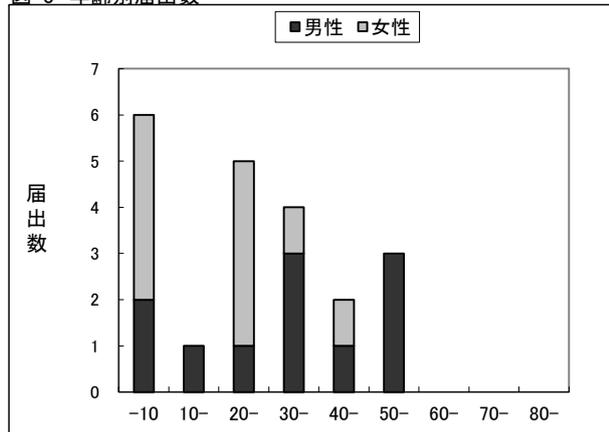


図-6 病型別

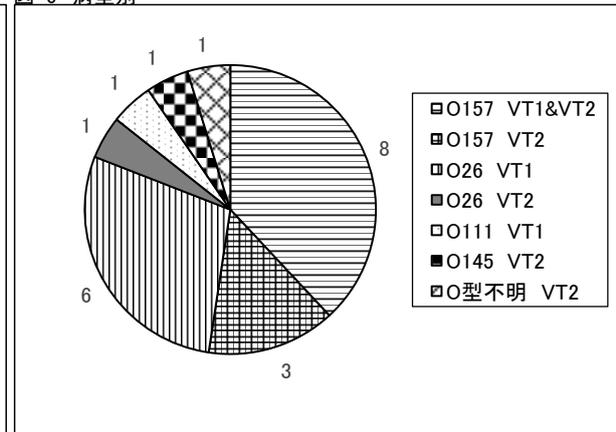
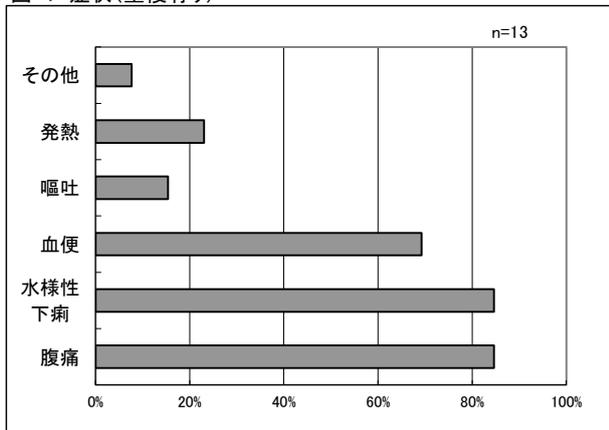


図-4 症状(重複有り)



## その他

感染地域(推定含む)  
 県内: 14例  
 県外: 3例  
 国内(県外・不詳): 3例  
 海外: 1例

感染経路(推定含む)  
 経口感染: 10例  
 うち4名に肉類(牛、豚、鶏、生センマイ、牛ホルモン)や牡蠣の記載あり  
 接触感染: 4例  
 不明: 7例

その他の症状: 頭痛

# 梅毒

(別添3)□

図-1 過去からの週別届出数の推移

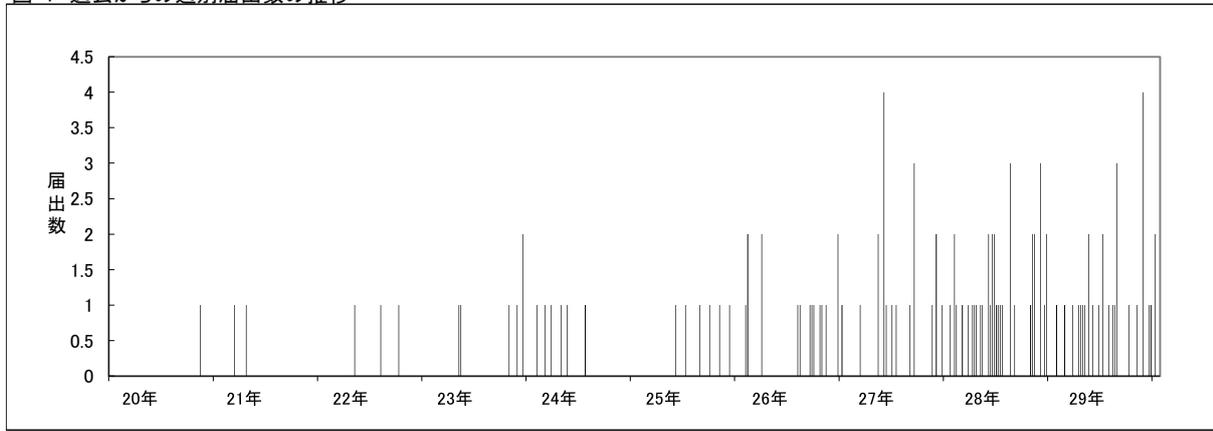


図2 過去からの届出数の推移

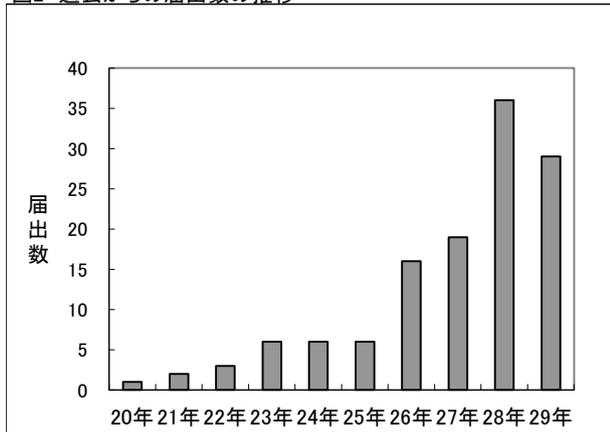


図5 週別届出数

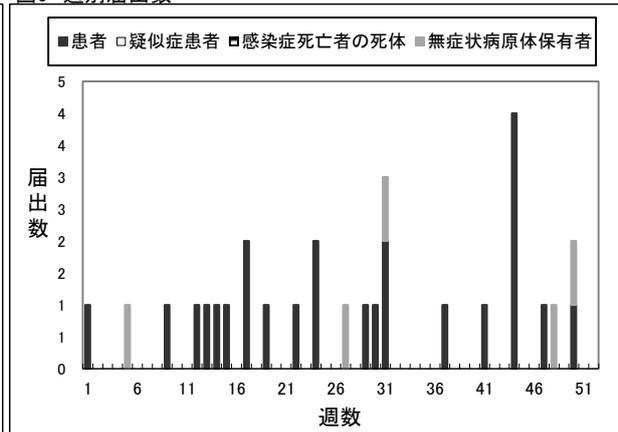


図-3 年齢別届出数

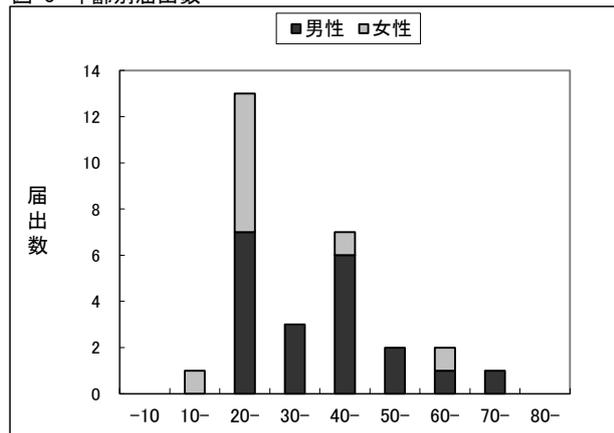


図-6 病型別

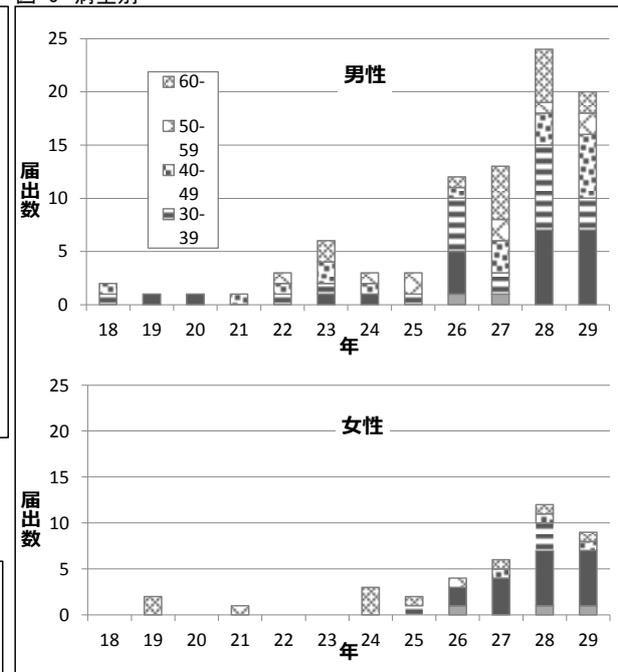
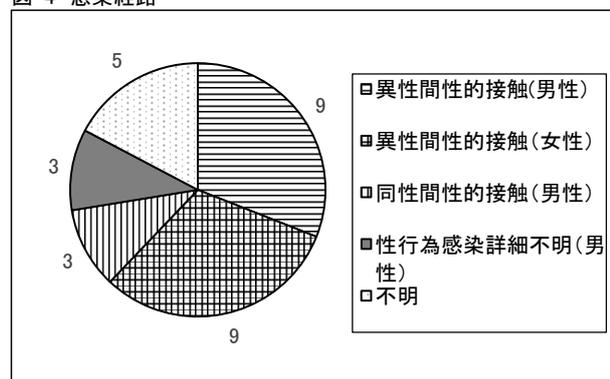


図-4 感染経路



## 概要

感染地域(推定含む)  
 県内:16例  
 県外:10例(国内不明含む)  
 海外:1例(フランス)  
 不明:2例